

簡単に増やしたり減らしたりできない“生乳”

新型コロナウイルスの感染拡大により、世の中全体が深刻な打撃を受けています。酪農業界においても、学校給食用牛乳の供給停止や、観光業の停滞、外食産業の休業などが、牛乳・乳製品の原料となる「生乳」の需給にさまざまな悪影響を与えています。

生乳は、生き物である乳牛が生み出す農作物。ここでは、酪農や生乳の特性について解説します。

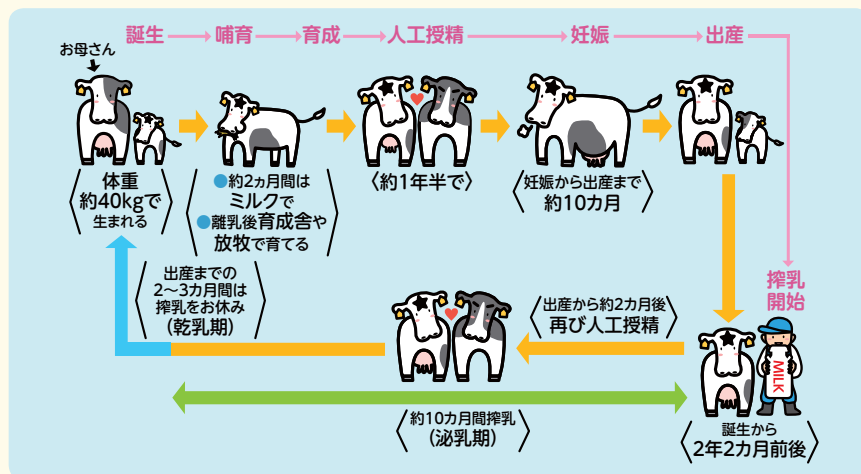


◆メスの乳牛が妊娠して、子牛を産み、初めてお乳が出ます。

乳牛から搾ったままのお乳を生乳といい、牛乳・乳製品の原料となります。人間のお母さんと同様に、乳牛は子牛を産んで初めてお乳を出します。

メスの乳牛は、誕生してから約1年半で人

工授精し、約10カ月の妊娠期間を経て出産し、お乳を出すようになります。出産後は、2～3カ月で次の人工授精が行われる一方、この時期をピークに10カ月ほど搾乳します。その後、2～3カ月搾乳を休み（乾乳期）、次の出産に臨みます。



このように、乳牛は誕生からお乳を出すまでに、2年以上かかります。また母牛は、毎日きちんとお乳を搾り続けないと乳房炎という病気になってしまいます。生き物である乳牛から毎日生産される生乳は、簡単に増やしたり減らしたりすることができないのです。

◆牛と共に生きる酪農家の一日

乳牛という生き物を相手にする酪農の仕事に、休日はありません。多くの酪農家は朝と夕の1日2回、母牛から搾乳を行います。この時、牛たちの健康状態を確認し、エサをやり、牛舎の清掃や糞尿処理などを行います。

日中は、牧草地や飼料畑の作業やエサづくり、機械の手入れ、子牛の世話などを行います。また母牛の出産時は昼夜を問わず見守り、対応します。無事に子牛が生まれたら母牛をねぎらい、子牛の濡れた体を拭き、初乳*を飲ませて世話をします。毎日おいしい生乳を搾る

ため、酪農家は愛情を持って牛たちに向き合い、大事に育て一緒に生きているのです。



*初乳とは、母牛が分娩後、最初に分泌するミルク。子牛の免疫防御機能を供給するための抗体（免疫グロブリン）が含まれている。